
何もない世界

オレンジジュース 0 %

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何もない世界

【Zコード】

Z4692X

【作者名】

オレンジジュース0%

【あらすじ】

僕の世界に不思議な物は何一つとして必要のない物である。たとえ、世界が世界としておかしくても僕は知らない。見てない。聞こえない。

第一話 口常（前書き）

今日もなにもなかつた。

第一話 田常

まず、初めに僕の名前は佐藤早紀さとう さきといつ。それからなんといふであります。女子高校生略してこうである！えへへへ

ん？そんなことはどうでもいい？うん、わかってるや。でも、一応形式美というものを実践してみたかったのだよ？と僕は主張してみたかつたりするわけだ。

ん、そんなわけで僕の自己紹介は覚えてたら後日記載するということで期待して待ち続けてもいいよ？僕としてはその心意気は応援したりしなかつたりするよ？でも、もしも記載することがなかつたとしても僕としては謝るつもりないし何かするわけでもないんだけどね？

ん？わかってるよ、わざわざ本編を始めろ？はいはい、わかってるわー！

じゃあ、ここからが本編のはじまつはじまつ

世界は混沌の渦で巻き込まれ人々は逃げまどい阿鼻叫喚アブノウカイクがどどろくばかりであった。

そんな中、勇者佐藤早紀は立ち上がったのであるー。

「現実はそんなもんだよ。たとえば、24時間テレビは募金が2億円だとした時の制作費9億円で、その時TVの向こう側で涙流してたタレントギラが有料で下手したら募金額を超えることとか信

「いや、それはかつあげつていう脅迫だからね？僕、現実では勇者どころか体力のないただの女の子だからね？」

「役に立たないね～」

「勇者なんじょ？お金ひょうだいよ

「いや、でって言われても答えられなかつたりするんだなー…これが！」

「へ～、で？」

「つていつ夢を見たんだ

じたくなこ」とは、この世にたくわあるんだよ。」

「ふ～ん、そつなんだ。あつ、今日田直だから先いくね?」

「いっしりしちゃい。」

ソウして今日も日常が始まつたり始まらなかつたりするみつで普通に学校生活がはじまるのであつた。

さて、田直の仕事をしなことな。

第一話　日常（後書き）

いとんな日常。

第一話 やの日の続々（前書き）

今日も何も起じらなかつたと思ひ。

第一話 やの田の続々

さて、問題が生じた。

うん、確かに問題だと思う。なぜならば今は朝のホームルームとかつつかなく終わり途中遅刻して教室に入ってきた何故か服装が崩れてて怪我を負ってる男子が、

「魔物に近所のおばあちゃんが襲われていたのでその魔物と戦つてきました！ぎりぎりで勝てたけど予想以上に時間がかかったので遅れました！すみません…！」

と言いわけをしてたとかそんなことがあつたりしたけどそこは問題でもなんでもない日常であるわけなんだけれども、今現在は一時間田の授業中なわけで……

「」にきて問題が発生した。いや、なにか事件とかが起きたわけじゃなく、普通に小テストが突然的に開始されたわけで、テスト自体には何も問題はないんだけど、うん。小テストの時間制限は10分。僕は開始5分で終わってたりするんだけど、そんなことは何も問題じゃないんだ。

何が問題っていうと……

・・・・・すゞトイレにいきたいです！

いやー、これには参った参った。突然の排尿感。どうしたものか、花の女子高生がハイニョウカンとかいうなつて？ははっ、そんな余裕なんてとっくの昔にどこかにいったわけださ。

まあ、普通に手を挙げてトイレに行かせてもらひればいいのかもし

れないけど、

『恥しいじゃないか！』

考へてもみたまえ！花の女子高生が！頬を微妙に染めて、クラスの皆がいるなかで手をあげて、しかも今は小テスト中だから先生は手元の教科書を見るからそこに声をかけないといけないわけで。それによつてクラス中の目線を一斉に受けるわけで。しかも先生を呼んだ理由が『トイレに行きたいから』。うん、恥ずかしくて言えないわけで。

こんな僕でも、一応好きな人とかいるわけで、それが誰かはここには記載しないけどもさ、噂とか広がつたりしたら嫌なわけで。

さつきから僕がそわそわしてるのを見て隣の席の友達の・・・名前は忘れた友達の子が「大丈夫？」って聞いてきたから「大丈夫」って即答してしまつた僕のばかあーとか今現在思つてたりするんだけどね？

そして、なにより今はまだ一時間目の最初。3~4時間目とかならまだしも一時間目だし、なんで休み時間のうちにいかなかつたのかも言われるし、そしてなにより先生が男の人だつていうのもあるわけとして、はい。うん、そろそろきつかつたり。

でも、このままだと我慢できそうにないから言わないといけないわけで。このまま時を待つにしても、授業開始からまだ8分。次の休み時間まで途方もない長さのように感じられるわけで。足をこすりあわせてしまう程度には限界が。

うん、ピンチです。絶望感しか感じません。

まあ、結局の話は、小テストが終わるタイミングで、理由も変えて『トイレに行く』のではなく『気分がすぐれないから保健室に行く』にしたわけで、それでも結構恥しかつたりしたんだよ？・皆から心配そうな目で見られたりしたからね？皆は僕の体調がわるいから心配してんんだろうけど、僕はトイレに行きたいだけだからさ。保健委員の人には断わって、教室からでたら頑張ってトイレにいったさーうん、安心したよ。あ、普通に保健室にも行ったよ？一応、理由としては保健室に行くだつたからね

追記：保健室に行つたときにわき腹のほうが痛くなつてきて見て
もらつて病院のほうで調べてもらつたら盲腸でした。・・・保健室
に行つてよかつた。

第一話 その日の続き（後書き）

今日も平和だ・・・

第三話 やがて日常（前編）

日常はまた日常。今日も平和だ・・・

第三話 そして日常

さて、前回の話を簡単にまとめると盲腸で病院に行つた。（作者の大好きな妹が）

「どうでやっちゃんはもう体大丈夫なの？」

そう！僕の名前は、佐藤早紀さとうはやきだ。前回といつか二週間前、盲腸で手術つて、なぜか待合室で8時間以上も待たされた上に忘れ去られていたせいか、症状が悪化していろいろひどくなつて予定よりも長く入院することになつてしまつた佐藤早紀である。・・・だれに説明してるんだか。いや、そんなことよりも・・・

「・・・」

「えー…どうしたの？どこか痛いとかあるのーー？」

「へ、これははどうことだろーーーいつも反応がどこか冷たいこの友人がなぜか優しい。明日は魔王でも降つて来るのではないか！本気で疑つてしまつた！いつもならここで手術跡めがけてボディーブローを仕掛けてもおかしくないのになにもない、そしてこの優しい言葉である。しかもうつすら頬を赤くしてくれている。こつこれはまさかあの・・・

「・・・これがシンデレラといつものなのか（ボソッ）」

「え？ なにか言った？」

「ん～ん なんにも」

今日も一日平和である。

キーンゴーンカーンゴーン

さて、一時間目が始まったわけだが特に書くこともないだろ。う。ただ、今日も遅刻君（今、命名）が、何故か服装をぼろぼろにして頭から血？いや、きっとペイントをつけて「今日はちょっと吸血鬼と戦つてきました。いや、襲われてる女性を見過ぎすわけにはいませんから」とか意味のわからない言いわけをしていたが、なぜだか教科担当の先生は笑って許していたわけだが、授業後にあつちゃんに聞いてみたら毎日何かと戦っているらしい。・・・あんな凝った格好してくる時間があつたらすぐに学校にくればいいのに。目立ちやがりなのかな？

そんなこんなで昼休み。僕の学校では、昼休み開始5分で売店のものはたいてい売り切れになるので、お弁当を持参しないと普通はこんな普通の体力もない僕は、昼食を食べることもだけないわけだけど。退院直後の僕はそんなことさえも忘れていたわけだが。いや、ながながと現実逃避をするのはやめにしよう。なぜなら・・・

「ん？ どうしたの？ たべないの？」

あつちゃんが僕の分のお弁当も作ってきてくれてます！これはデレ期ですか！？ デレ期なんですか！？ ん、でもやっぱり食べたくないわけで・・・

「もつー・そんなにいつも食べさせないあげる」

いや、そんな笑顔で言わないでください。恥しいじゃないですか。
・・そんなことよりも、そんなに真っ黒焦げになつてゐるわりにすご
い甘い臭いのする生クリームの乗つた唐揚げ（あつちゃん曰く）を
こつちにむかつて食べさせよ!としないでくださいー・なんの罰ゲー
ムですか!/?これは!—

「ほおら」

「むげーうつ!…?・・・・・・・・・・・・・・ほわえあ・・・・・みやああ!
!—!」（ガク

一瞬、あの世のお花畠と三途の川が見えた気がします。いいえ、
確実に見えました。だって、向いの岸におばあちゃんがみえたもん。

「ほおら もつー 口」

あつ、あなたはなにに怒つてゐんですか!/?あれですか?今日、
朝からデレしてるように見えたのは怒つてゐるからだ、ここまでのグラ
フですか!?

しばらくお待ちください。ここから10分間友人に無理やり黒
い物体を押し込まれます。手術跡を触りながら・・・。

後半に続く

第三話 やじて日常（後編）

そんな日常。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4692x/>

何もない世界

2011年10月27日02時10分発行